

『経穴、経絡に関するQ&Aと要点、注意点』**『質問』****質問 01 「胆嚢点は何処ですか？」**

胃経上で、「解谿」から4横指上を取る。

心身症のひとつの「胆道ジスキネジア」（神経的なもの）にも効果あり、「胃の気」の流れをよくするために使う。

昔は使っていたが、今はあまり使わない。

* 「探求」の本に載っている、昔使用していた取穴、配穴は、今あまり使わないが、皆さんが各疾患に対して処置法を決定する上での参考として応用して下さい。

質問 02 「肝虚の時に「太敦」の処置は、鍼と灸どちらがいいですか？」

鍼を丹念に雀啄、痛みが出やすいので注意。

施灸もいいが、熱いので嫌う人が多い。無理強い禁物。

質問 03 「「魚腰」の取穴は、しこりを目指して取るのですか？」

正規には眼球の中心線上の眉毛上縁に取りますが、

臨床上、眼球の中心線上の眉毛下縁に取る方が効果があります。

質問 04 「「魚際」(+)で肺経の実の場合、左右の処置の仕方は？」

圧痛がでた患側の肺経の気・水穴「経渠、尺沢」を使う。

両側あれば、両側使う。

質問 05 「心包経の異常時、心包経を治療点に使わないのは？」

心包は機能的な複合体だから、「心臓神経症」の時は心包よりも、元になる「心身症」の自律神経に関したものになるので、「S・U」「ネーブル」を使う。

「逆流性食道炎」は実なので、周りから「心」を抑えていく考え方から、「脾経、胃経」の実を取る「気・水穴」を使う。

治療上の注意点、要点

- 01) 「天牖」は、効果があるつぼだから、じっくり雀啄。
- 02) 「陰陵泉」は寸6でも、寸3でも良い。
- 03) 「大腸俞」も扁桃処置になる。
- 04) 「身柱」は骨盤鬱血に関連した興奮抑制作用がある。
- 05) 「細、緊、数で肝虚」の場合、「太敦」は効果大。
- 06) 「陽輔」に圧痛がない場合、上の「懸鐘」等の圧痛が強いところ取る。
- 07) 「陰陵泉」は糖尿、粘膜、骨盤鬱血等、循環をよくするバリエーションのあるツボ。
- 08) 「然谷」に圧痛ある場合「腎経の気・水穴処置」又は「S・U・尺」。
- 09) 「照海」と「然谷」とは逆の作用、副腎皮質ホルモン分泌促進。
- 10) 「太谿」と「尺沢」と併せて使用で鎮咳。
- 11) 「復溜」は腎の機能を補う。
 - ・「列欠」と併せて使用で肺機能を補う。
 - ・「尺沢」と併せて使用で扁桃の炎症時、交感神経緊張時。
- 12) 「築瀆」と「肩髃」とを併せて使用で、毒素を排泄「皮膚科処置」。
- 13) 「陰谷」と「復溜」とを併せて使用で、多くの「婦人科疾患」。
- 14) 「内陰」は僧帽筋の緊張を取る。
 - ・「中脘」と併せて使用で「むち打ち症」。
- 15) 「膀胱経」は長野式の処置の中では、神経系、筋肉系に関与してくる。
- 16) 「心包経」は機能性の強い経絡で、全身を蘇生する力がある。
- 17) 「心包経」は促す働き（血流を促す）。
「三焦経」は押さえ込む働きがある（痛みやリウマチを押さえ込む）。
- 18) 「天柱」は低血圧（血圧調節）に効果がある、特にお灸が効く。
ただし、この「天柱」は高血圧に施灸をすると、逆に悪化させる恐れがあるので禁忌。